

重点目標	【正しいと思うことをまずやってみる学校】 （生徒指導）	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度県学習状況調査・質問紙調査「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答割合が、4年生以上平均85.2%と向上している。 ・いじめの認知数は35件、いじめを許さないという意識が高まってきており、認知後は早期対応に努めている。 ・不登校傾向は、6年男子・2年男子各1名が相談室登校で、保護者との話し合いや関係諸機関との連携を取りながら対応している。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分にはよいところがある」85%以上を、保護者アンケート「子どもたちはやさしさを行いで表していると思う」肯定的評価の割合90%以上を目指す。 ・不登校傾向の解消に努める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や児童会活動、学校行事等で、「勇気」について確認する場を設定し、児童一人一人の選択が互いに認められるようにする。 ・子供を語る会、あかしや点検表、友達アンケートなどにより、気になる児童の全職員による共通理解を行い、支援体制を整える。 ・保護者や関係諸機関と迅速な連携を図り、諸事象に対応する。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級の帰りの会で、その日頑張った児童を認める場を設定したり、各種学校行事や児童会活動のふり返りの場で活動を価値付けたりする等、教師や友達に認められる場の活用に努めた。 ・子供を語る会では全教員、配慮しなければならない児童を確認し合い、全校体制で継続して見守った。また、毎月のあかしや点検や友達アンケートで気になる子どもを把握し、個別に対応した。 ・「生徒指導だより」「生徒指導部報」で保護者へ安全な登下校への啓発に努めたり、生徒指導上の児童への共通理解を図ったりした ・事案に応じて保護者や民生委員児童委員、市適応教室等の関係諸機関と迅速な連携を図ることができた。 	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートはWeb無記名方式で実施した。 ・県学習状況調査・質問紙調査「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答の割合が、4年生81.9%、5年生72.4%、6年生90.7%であったが、「人の役に立つ人間になりたい」は5年生が97.1%と最も高く、よりよくありたいと意識していることが分かる。 ・保護者アンケートで「子どもたちはやさしさを行いで表していると思う」について肯定的評価の割合が88.3%と目標をやや下回った。 ・前年度に不登校だった4年生1名は、新年度から毎日登校している。前年に相談室登校であった6年生1名が不登校状態であるが、夏休み後、5年生1名が不登校となった。不登校傾向の2年生1名は、市適応教室に毎日通級しながら、学校の課題を受け取ったり提出したりすることで、学校との関係を維持している。 ・年度途中に登校しぶりのあった2年生2名、1年生2名は、家庭との連携を密にして対応した結果、順調に登校できている。 	

自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいと思うことをまずやってみる「勇気」を大切にすることを意識させたところ、児童会総会で自分たちができることが話し合われたり、低学年の自主的なあいさつ運動が行われたりした。 ・子供を語る会、あかしや点検表、友達アンケートの実施と職員間での情報共有、心の相談室等の有効活用により、多くの児童にとって安全な『心の居場所』『絆づくりの場』が実現されていると考えるが、そこから漏れる児童が常にいる可能性を考えながら、対応を継続していく必要がある。 ・不登校児童および不登校傾向児童のうち、学校の対応で改善が見られる場合もかなりあった。反面、家庭環境や本人の発達上の特性である場合は、関係機関との連携しながらも、十分に吟味した対応が必要があるため、改善に時間を要している状況である。 	C
------	---	---	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のコミュニケーションする力を高めることに期待したい。 ・正しいことを行うことは勇気があることで、そこに力を入れていることを評価したい。みんなで目標に向かって盛り上げてほしい。 ・不登校は児童数に比して少ない。学校が好きと感じる。 ・身体的な理由から登校できなくなる場合もあるので、大変とは思いますが状況を確認しながら対応を進めてほしい。 	C
------------	---	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい「勇気」のあり方を、児童や職員がそれぞれの立場で具現化する手立てを講じることに努める。 ・児童の自己実現がより一層図られるように、組織的に観察と声かけを継続し、対処が必要な場合は、チームを編成して改善に努める。 	A
-----------------------	--	---